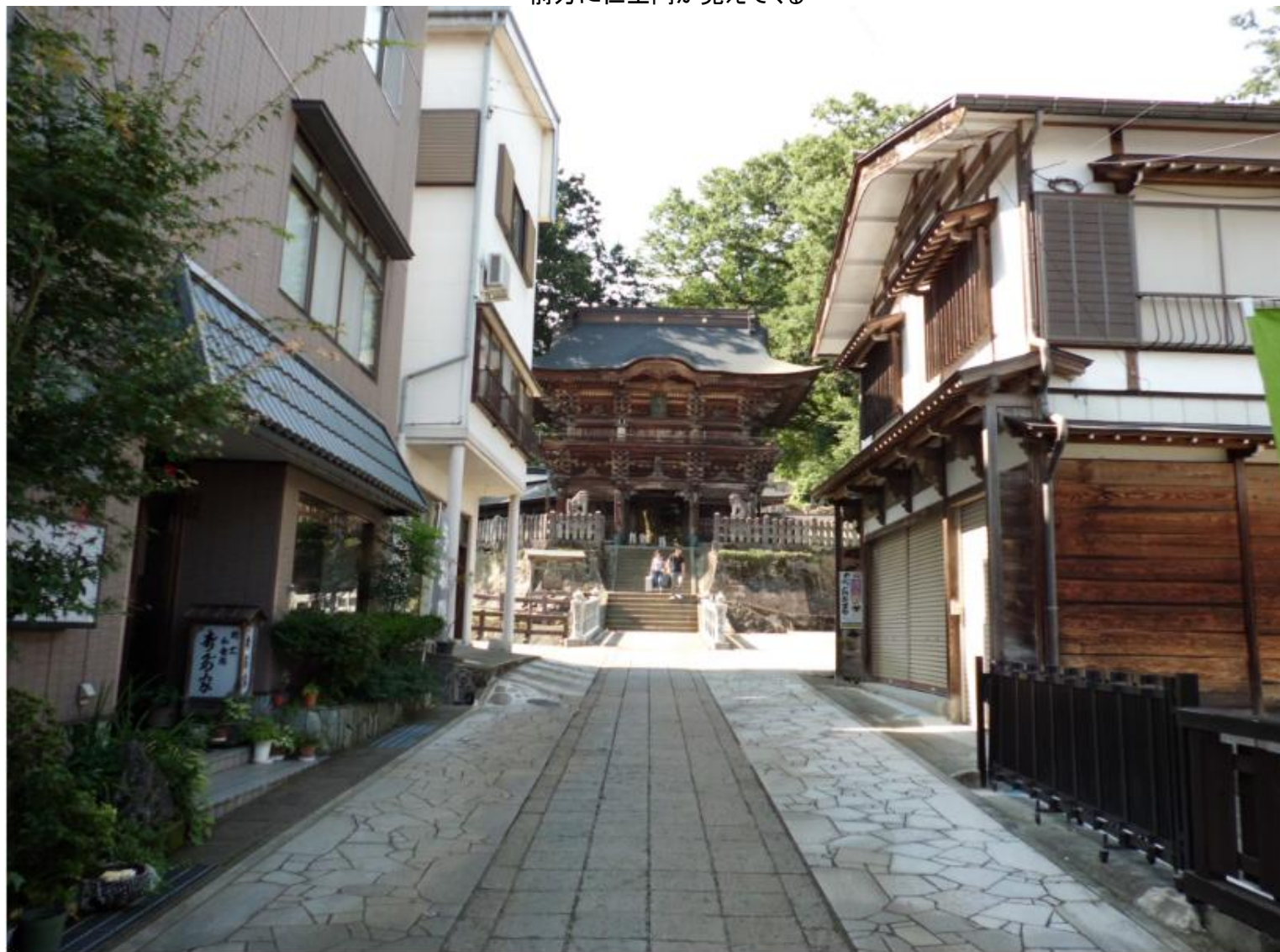


[普光寺]探訪レポート

前方に仁王門が見えてくる



日光東照宮の陽明門を模しているという





浦佐城跡

上杉景勝、直江兼続と共に
に戦国の世を駆け抜けた
上杉「十五将」の一人、大岡
「水原」親忠、後に清水藤
左衛門らが居城した。



浦佐城跡

上杉景勝、直江兼統と共に戦国の世を駆け抜けた上杉二十五将の一人、大関（水原）親憲。後に清水藤左衛門らが居城した。



実城跡からは魚野川、八色原が一望できます。南東には坂戸城跡、北東には板木城跡が望めます。

標高二九五米
実城跡(水丸)

浦佐城跡

二重空堀

葦師様の祠

葦師稻荷様

一の丸跡

帯郭

三の丸跡

西山三十

稲荷



上山城跡 秋葉様

十二様

登り口

実城跡まで登山徒歩約20分

茶師清水

千手院

浦佐毘沙門堂

別行殿

普光寺

山門(仁王門)

現在位置

登り口まで徒歩5分

上越新幹線

上越線

WC

P

毘沙門堂前駐車場

P

大駐車場

浦佐駅

八湯山口

仁王門/1831年建立/南魚沼市文化財







楼門の概説

此の山門は今から凡そ二七〇年前の天明二年(一八二二)当所の豪商関市郎武の造営寄進によるものである。日光の陽明門を型どり、竊構造りで雪国の豪雪にも耐え得る工法、全釘を用いることなく組立てられた建物として知られ、楼門には毘沙門天二十八使者の彫像を奉安し、十六羅漢壁画及び格弁天女の画は京都、仙画師板谷桂舟の力作で、何れも鮮やかな色彩が当時のまゝ遺されている。

楼下天井の双龍図(丸龍)板絵は江戸時代の画聖谷文晁の傑作で殆んど現存しない文晁の板絵としても大へん価値あるものと言われており、長い間、毘沙門堂のシンボルとして多くの信者から崇められてきた。

ところが双龍図は最近老朽が進み全く確認できないような状態となつてきたので、この程度屋根葺替事を機に日本画家永森二郎氏の手により修復されたものである。

平成九年五月吉日

毘沙門堂 別当 普光寺

双龍図板絵/江戸時代の画聖谷文晁師の傑作という



境内側から見る



仁王門より境内を見る



回廊/正面は不動明王



左手が浦佐毘沙門堂、右手は別行殿



毘沙門堂









禅宗様となっている















毘沙門堂の図面が掲示してあった



なんと毘沙門堂は伊東忠太の設計であった

この設計図は当毘沙門堂のもので
昭和七年三月（一九三二年）当時東京
帝国大学教授伊東忠太工学博士
によって作られたものです。

伊東博士は山形県米沢市の出身
東洋的木造建築設計の第一人者で
昭和十八年第三回の文化勲章受賞
者です。代表作は平安遷都
一〇〇〇年記念の平安神宮、明治神宮
震災記念堂、築地の本願寺などの
設計をされました。

新潟県内では弥彦神社と当毘沙
門堂のみです。



赤い屋根の建物は善光寺



左手は別行殿



独特の屋根形状をしている



参考資料

越後最古の名刹
くがみ山 国上寺 (こくじょうじ)



豪雪地帯独特の屋根の形とのこと

別行殿





庫裡





鐘楼





古山門





古山門

この堂は境内で一番古い建

物といわれ松平忠輝(徳川家康

の次男)の寄進といわれています。

左側 大黒天

をまつる。

右側 愛染明王

立派な宝篋印塔もあった



【真言宗豊山派】普光寺(新潟県南魚沼市)

普光寺(浦佐毘沙門堂)・歴史・観光・見所

普光寺(浦佐毘沙門堂) 概要: 毘沙門堂の創建は大同2年(807)に坂上田村麻呂が開基したと伝えられています。鎌倉幕府の庇護によりこの地の地頭職であった平繁基が承久3年(1221)寺領を寄進し、僧道乗坊辯覚が開山した普光寺を別当にしました。室町時代になると周辺の領主からの寺領の寄進が多くなり隆盛し桁行五間、梁間五間、屋根入母屋造、茅葺の壮大な伽藍が建立されたそうです。戦国時代末期になると上杉謙信が毘沙門天に帰依していたこともあり毘沙門堂が信仰の対象となっています。江戸時代に入った慶長8年(1603)に坂戸城主堀丹後守直寄候が30石の寺領を寄進したことで合計50石となり、慶安年間からは3代将軍徳川家光がそれらの所領を安堵し歴代将軍もこれに倣いました。昭和6年に当時の国特別保護建造物に指定された毘沙門堂は火災により炎上しましたが、江戸時代に建てられた本堂や山門(豪商、関市四郎氏寄進)は焼け残り当時の繁栄を今に伝えています。特に山門は三間一戸、入母屋、銅板葺きの楼門で日光東照宮の陽明門を模したものとされ天井の双龍図板絵は、谷文晁師が描いたものとされます。普光寺楼門は南魚沼市指定文化財となっています。

インターネットより